

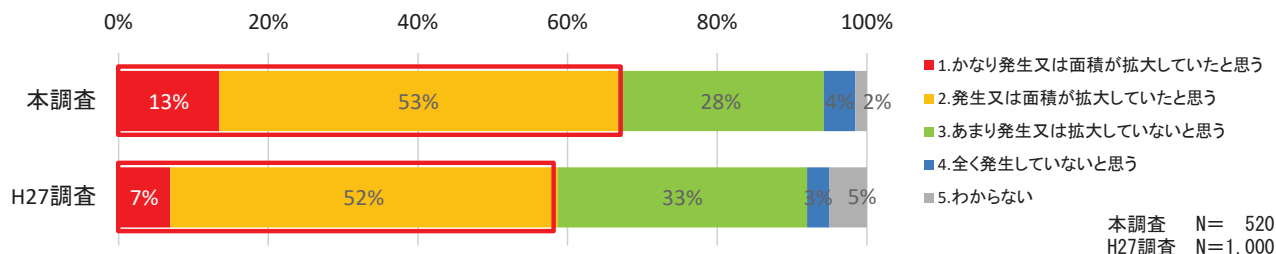
V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【資源と環境】

<図表 V-1-1①>

(1) 農地の保安全管理 (遊休農地の発生防止・拡大抑制)

本交付金に取り組んでいないかった場合の遊休農地の発生有無



遊休農地の発生防止や解消後の活用状況

① 遊休農地発生防止のための活動

- 現地調査の実施により、全体で情報の共有化
- 担い手農家に対し、貸付希望のある農地の情報を提供
- 道水路の整備により、耕作条件を改善
- 鳥獣害対策の実施
- 共同による耕起、草刈り 等

② 解消後の活用方法

- コスモス、菜の花等の景観形成作物の栽培
- 小学生の生き物調査水田として活用
- そば、もち米を地域共同で作付けし、収穫祭等を実施
- 都市住民との交流による田植えやさつまいもの栽培
- タラの芽を植えて販売 等

注) 平成27年度調査: 活動組織を対象としたアンケート調査を実施。調査対象組織数は1,000組織。

資料: 令和2年度 対象組織アンケート

V 多面的機能支払交付金の効果の評価

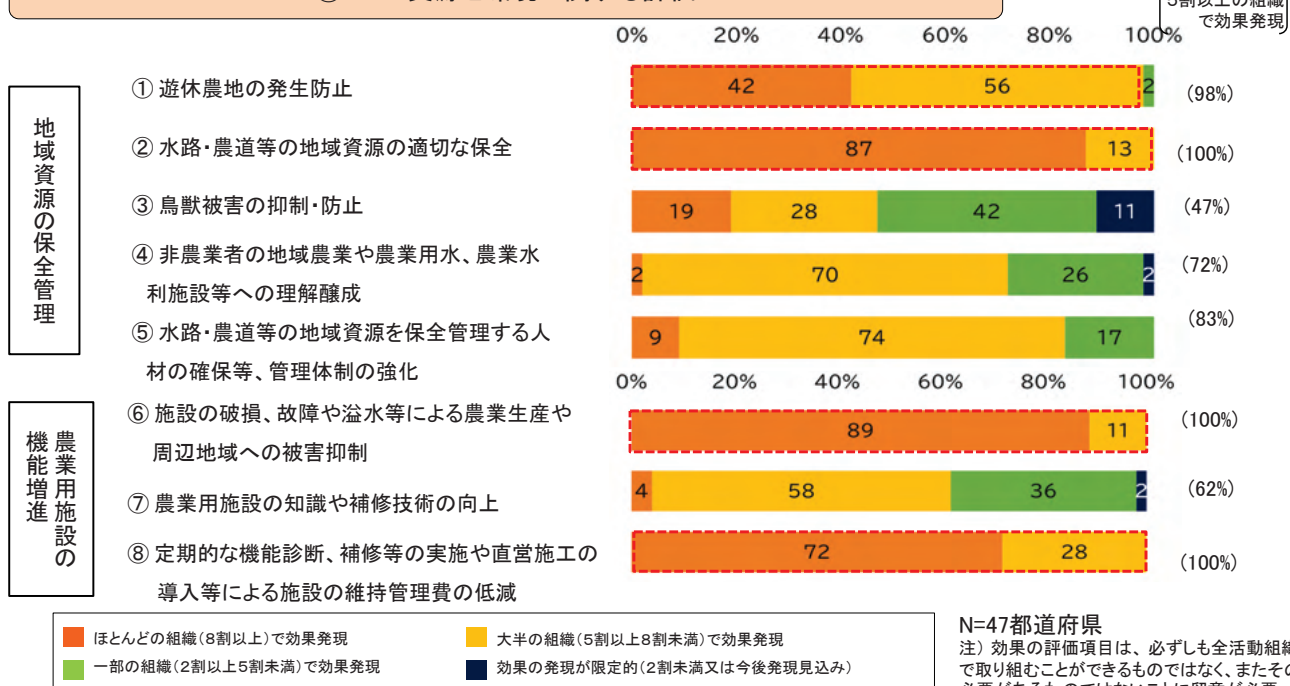
【資源と環境】

<図表 V-1-1②>

(1) 農地の保安全管理 (遊休農地の発生防止・拡大抑制)

(2) 農業用施設の機能維持

①-1 資源と環境に関する評価



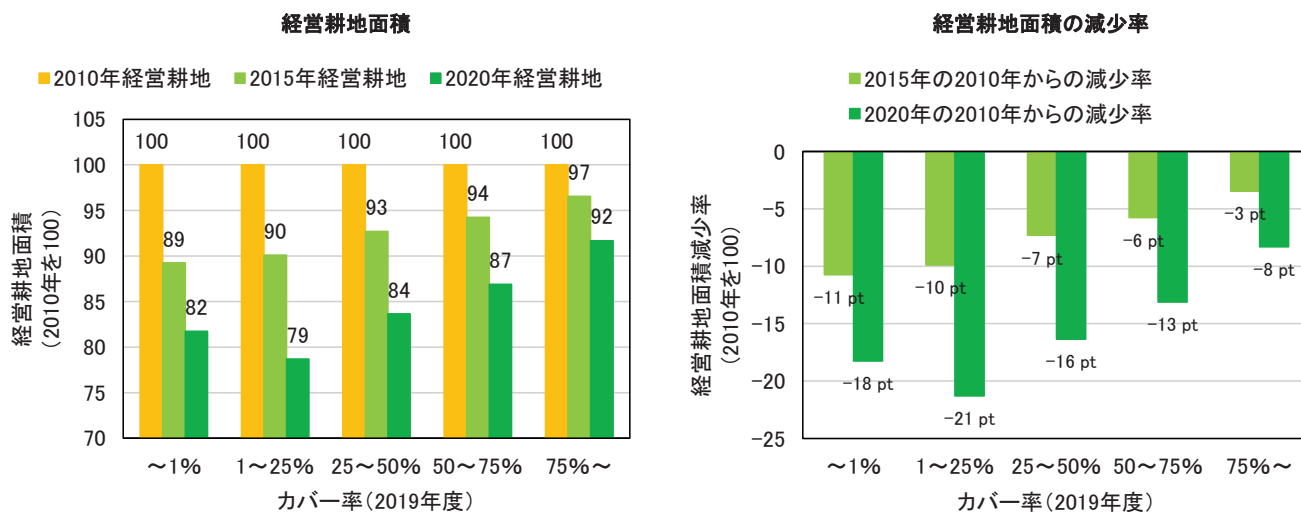
V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【資源と環境】

<図表 V-1-1③>

(1) 農地の保全管理 (農地の適切な保全管理)

経営耕地面積と市町村単位の多面的機能支払のカバー率との関係



※ 左図は、2010年における経営耕地面積を100とした2015年及び2020年の経営耕地面積の割合を、各カバー率の範囲に該当する市町村の平均値で示したものの。
 ※ 右図は、2010年からの減少率を示したものである。

資料：農林業センサス（2010年（平成22年）、2015年（平成27年）、2020年（令和2年））
 多面的機能支払カバー率（2019年度（令和元年度）実績）

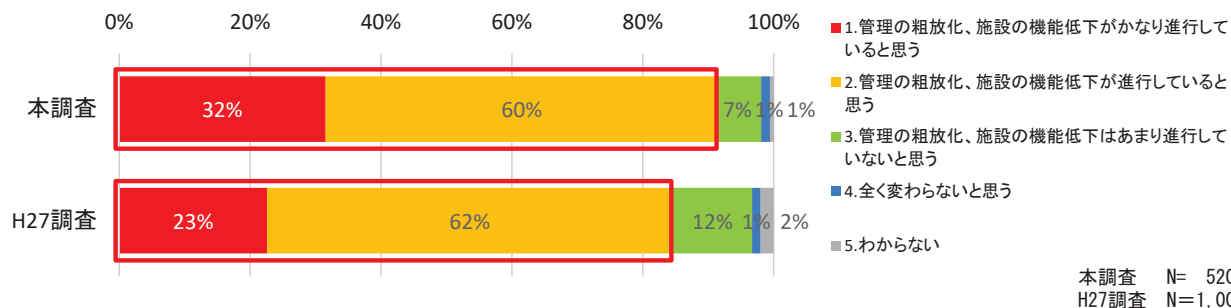
V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【資源と環境】

<図表 V-1-2①>

(2) 農業用施設の機能維持

本交付金に取り組んでいなかった場合の農業用施設の管理状況



注) 本調査とH27調査で有意差あり

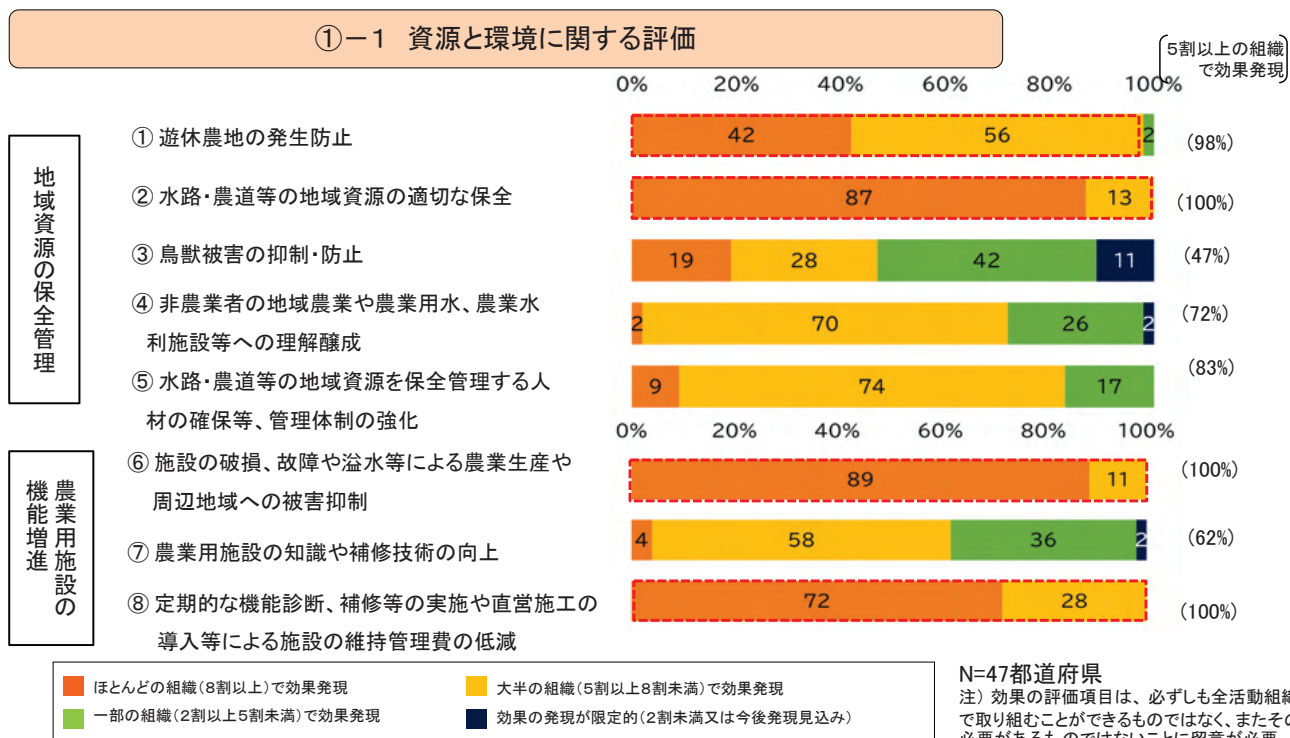
V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【資源と環境】

再掲

<図表 V-1-2②>

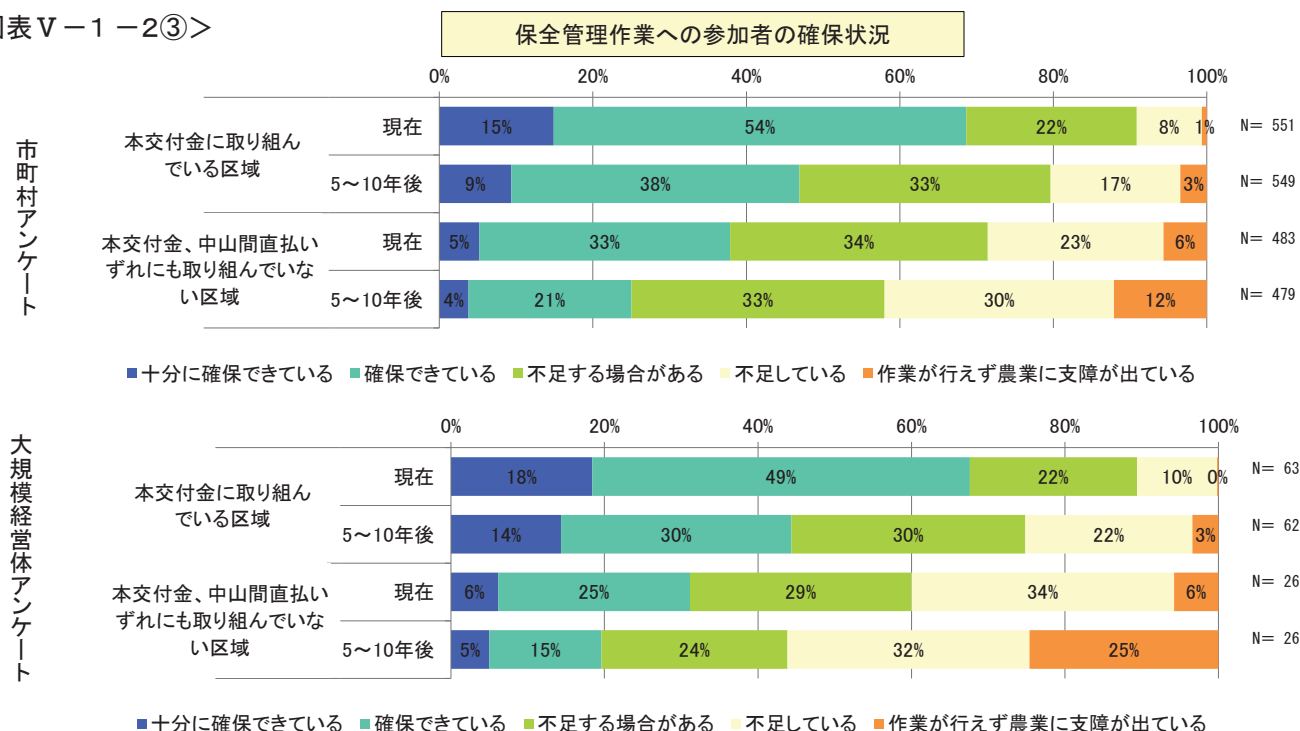
- (1) 農地の保安全管理
(遊休農地の発生防止・拡大抑制)
- (2) 農業用施設の機能維持



V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【資源と環境】

<図表 V-1-2③>



V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【資源と環境】

<図表 V-1-2④>

施設の長寿命化活動に取り組まなかった場合の10年後の見通し



注) 上グラフでは、平成27年度調査の選択肢「3.破損、老朽化等は認められるが、農業生産への影響が出るほどではないと思う」、「4.破損、老朽化等は問題とならないと思う」を「3.破損、老朽化等は問題にならないと思う」と表記している。

資料：令和2年度 対象組織アンケート

V 多面的機能支払交付金の効果の評価

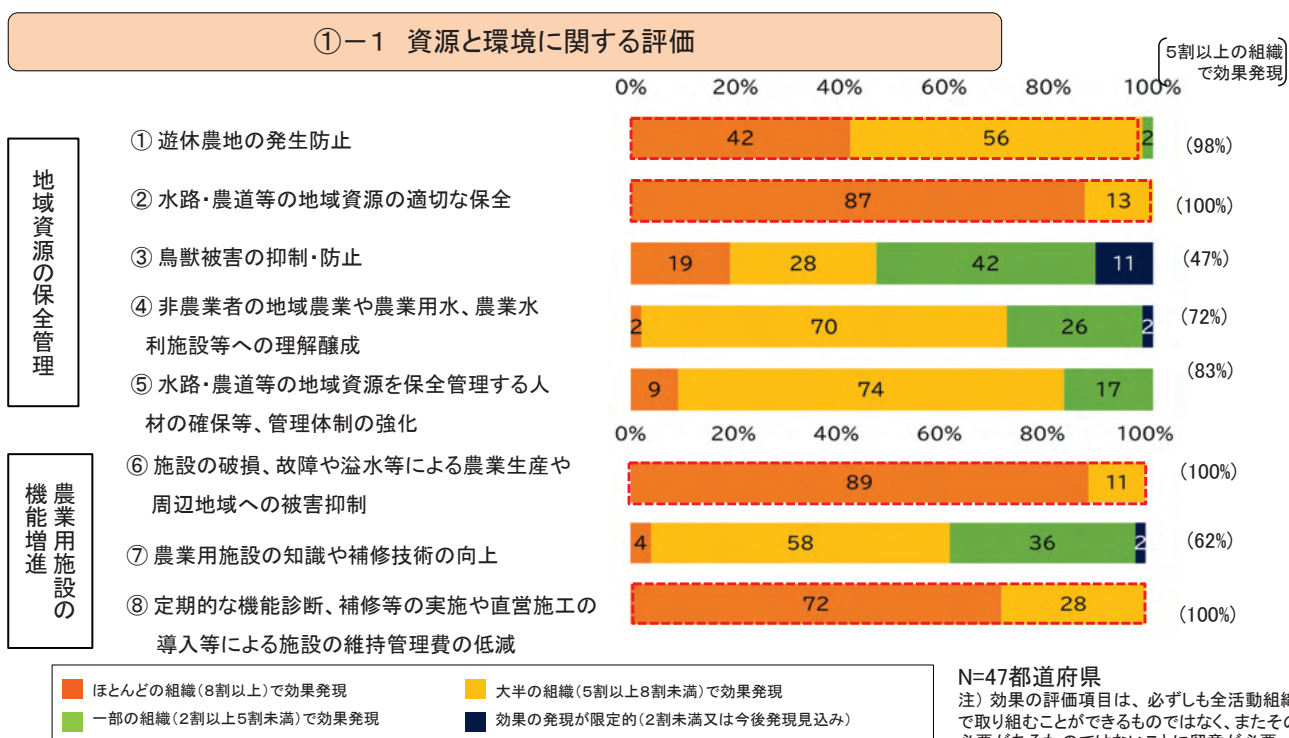
【資源と環境】

<図表 V-1-2⑤>

- (1) 農地の保全管理
(遊休農地の発生防止・拡大抑制)
- (2) 農業用施設の機能維持

再掲

①-1 資源と環境に関する評価



N=47都道府県

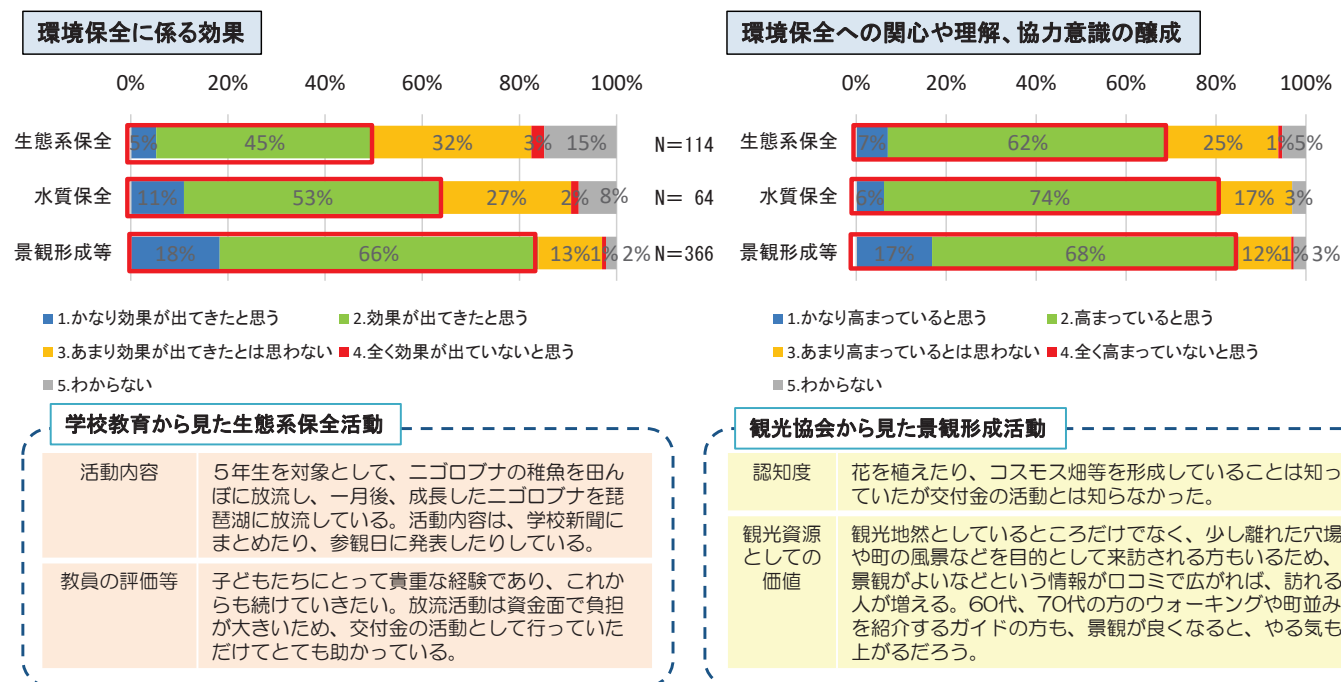
注) 効果の評価項目は、必ずしも全活動組織で取り組むことができるものではなく、またその必要があるものではないことに留意が必要

資料：令和5年度 都道府県の施策の評価

V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【資源と環境】

<図表 V-1-3①>

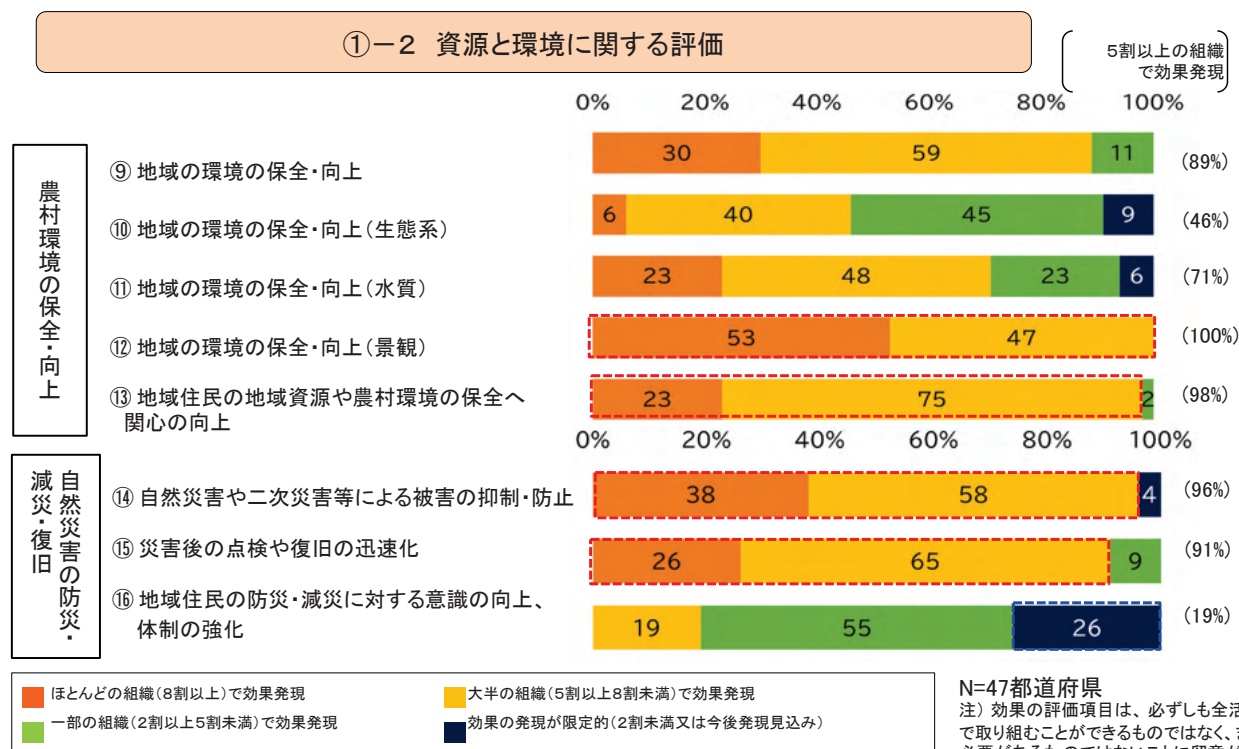


資料：令和2年度 対象組織アンケート

V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【資源と環境】

<図表 V-1-3②>



資料：令和5年度 都道府県の施策の評価

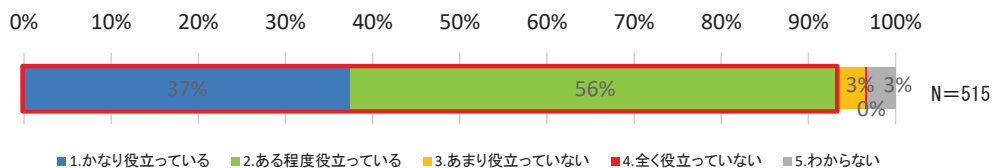
V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【資源と環境】

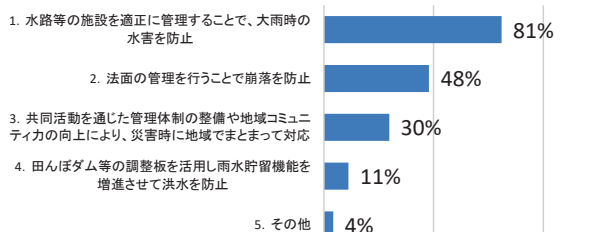
<図表 V-1-4①>

防災・減災・復旧に係る効果

排水路の泥上げやため池の点検・補修など、多面的機能支払交付金により継続的に施設の維持管理を行う活動が、異常気象時における被害減少や早期復旧に役立っていると思いますか。



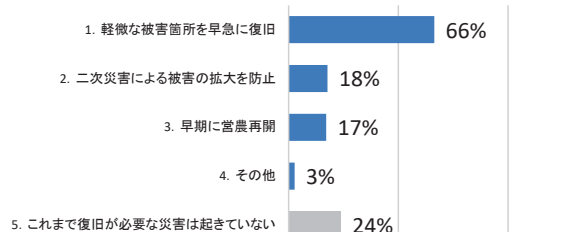
《防災・減災の効果》



その他の内容

- 情報収集能力が向上し、被害情報が早期に集約可能な体制となっている。
- 親子活動を通じて雨害の被害について話し合うことが出来ている。
- 地元消防団と協力して土のうを積む作業を実施。
- 大雨の時、夜間の水の取り入口の水止を実施。

《復旧の効果》



その他の内容

- 昨年は応急処置、今年は復旧工事を実施。
- 2019年10月の台風19号で流出した大量の稲わらの片付けを実施
- 地域住民の土木技術の向上。

資料：令和2年度 対象組織アンケート

V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【資源と環境】

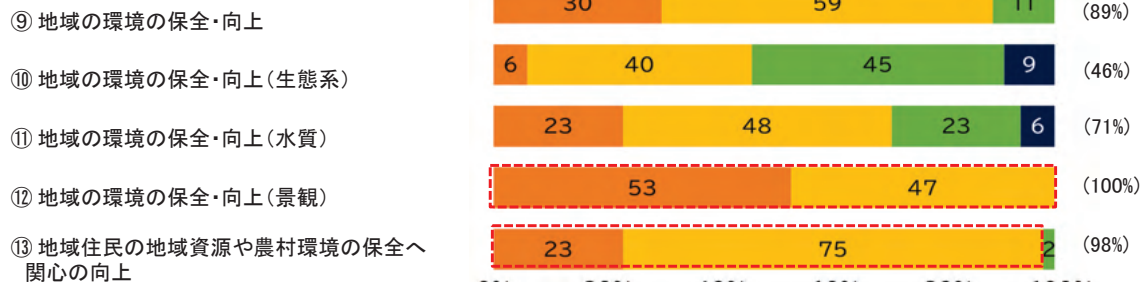
<図表 V-1-4②>

再掲

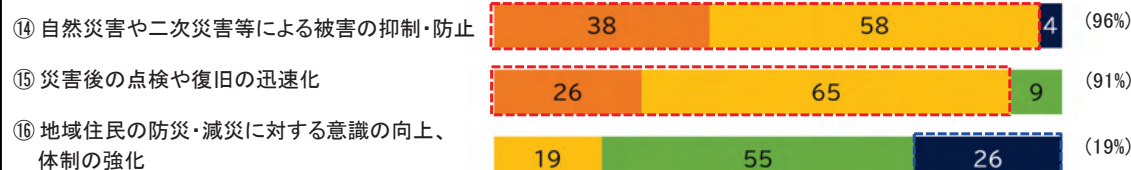
①-2 資源と環境に関する評価

5割以上の組織で効果発現

農村環境の保全・向上



減災・復旧・自然災害の防災・



- ほとんどの組織(8割以上)で効果発現
- 大半の組織(5割以上8割未満)で効果発現
- 一部の組織(2割以上5割未満)で効果発現
- 効果の発現が限定的(2割未満又は今後発現見込み)

N=47都道府県

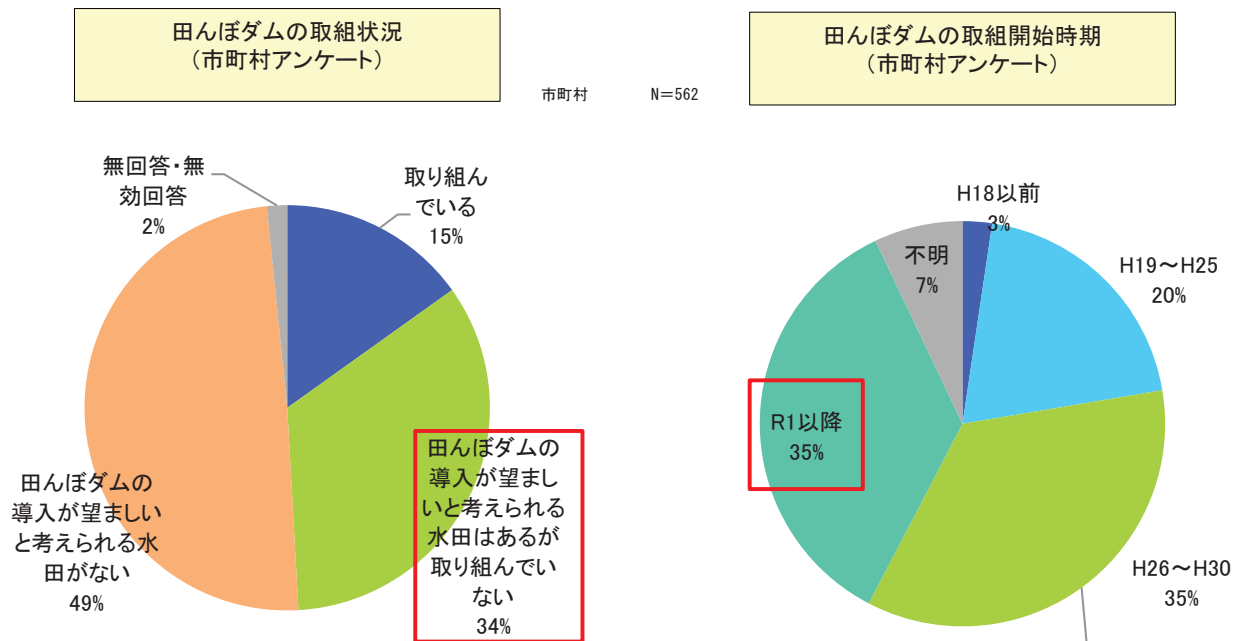
注) 効果の評価項目は、必ずしも全活動組織で取り組むことができるものではなく、またその必要があるものではないことに留意が必要

資料：令和5年度 都道府県の施策の評価

V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【資源と環境】

<図表V-1-4③>

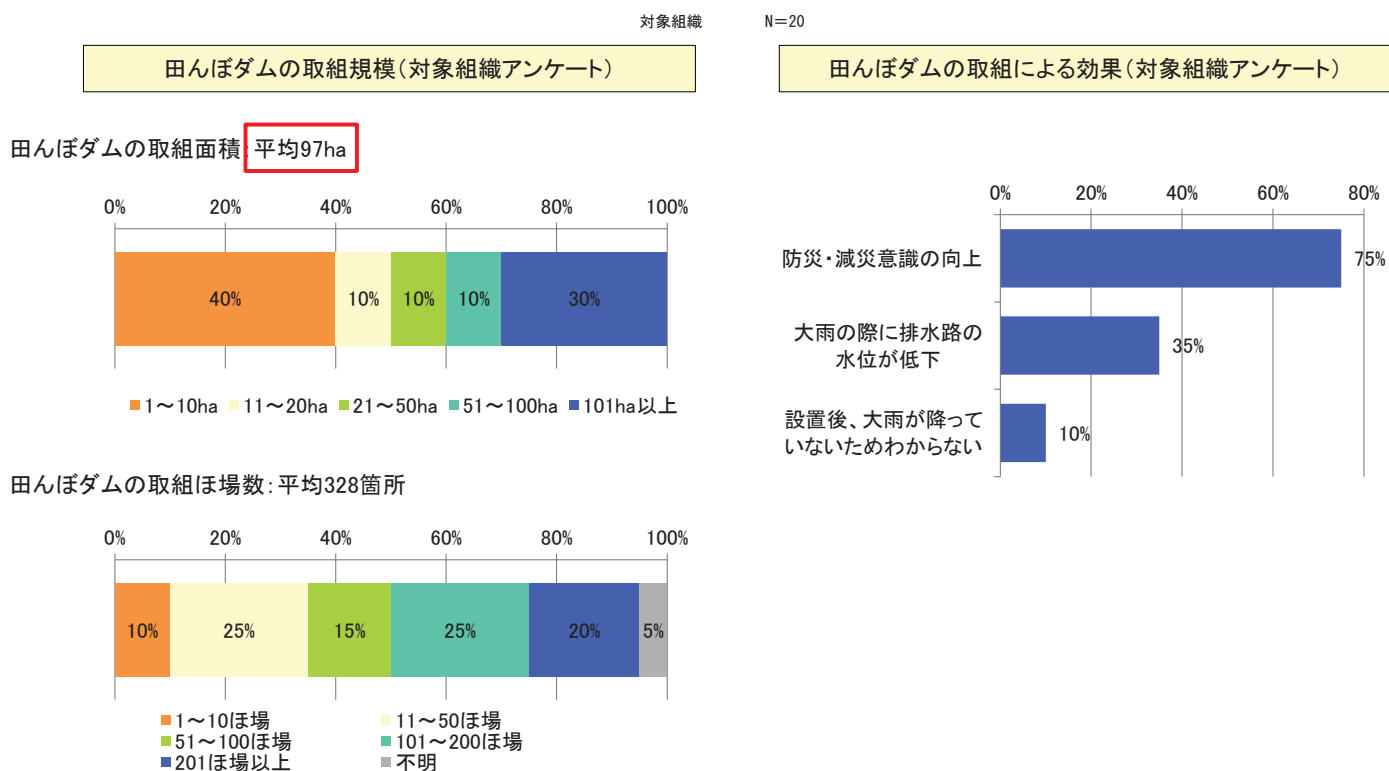


資料：令和3年度 市町村アンケート

V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【資源と環境】

<図表V-1-4④>



資料：令和3年度 対象組織アンケート

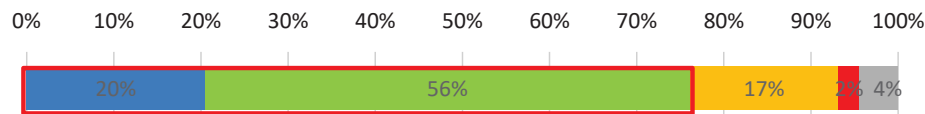
V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【社会】

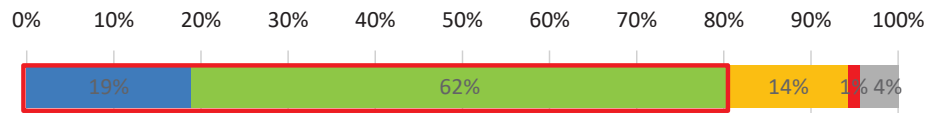
<図表 V-2①>

多様な主体の参画、活動の活発化への影響

農村環境保全活動は、非農業者や非農業団体(子供会、学校・PTA、女性会等)が本交付金の活動やその他の地域活動に参加するきっかけとなっていると思いますか。



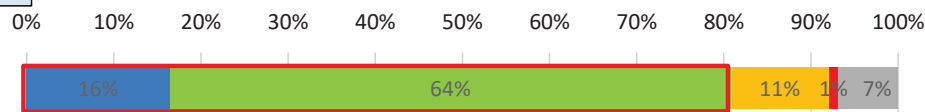
施設への植栽や農用地等を活用した景観形成活動は、草刈り、泥上げ等の農地維持活動や施設の補修には参加しにくい子どもや高齢者、非農業者等が活動に参加しやすく、多面的機能支払を地域全体の共同活動と位置付けて、活発化することに役立っていると思いますか。



■ 1.かなり役立っている ■ 2.ある程度役立っている ■ 3.あまり役立っていない ■ 4.全く役立っていない ■ 5.わからない

多面的機能支払の取組の広報効果

施設への植栽や農用地等を活用した景観形成活動は、多面的機能支払の活動を、参加者だけでなく、参加していない地域住民や来訪者に広報することに役立っていると思いますか。



■ 1.かなり役立っている ■ 2.ある程度役立っている ■ 3.あまり役立っていない ■ 4.全く役立っていない ■ 5.わからない

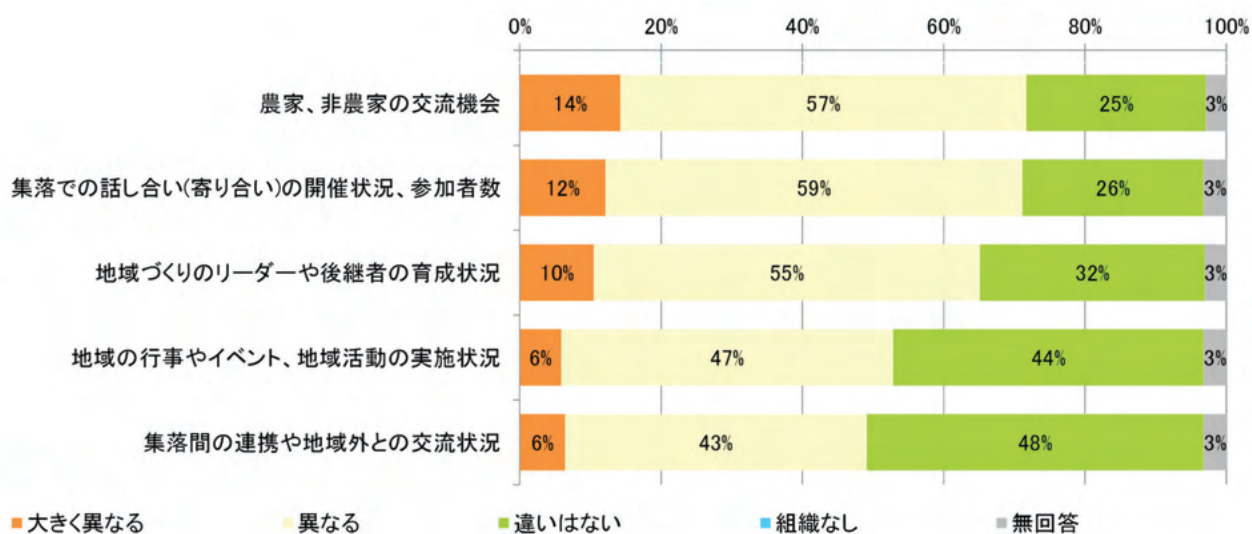
資料：令和2年度 対象組織アンケート

V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【社会】

<図表 V-2②>

本交付金に取り組んでいる区域と取り組んでいない区域の違い(市町村アンケート)



■ 大きく異なる ■ 異なる ■ 違いはない ■ 組織なし ■ 無回答

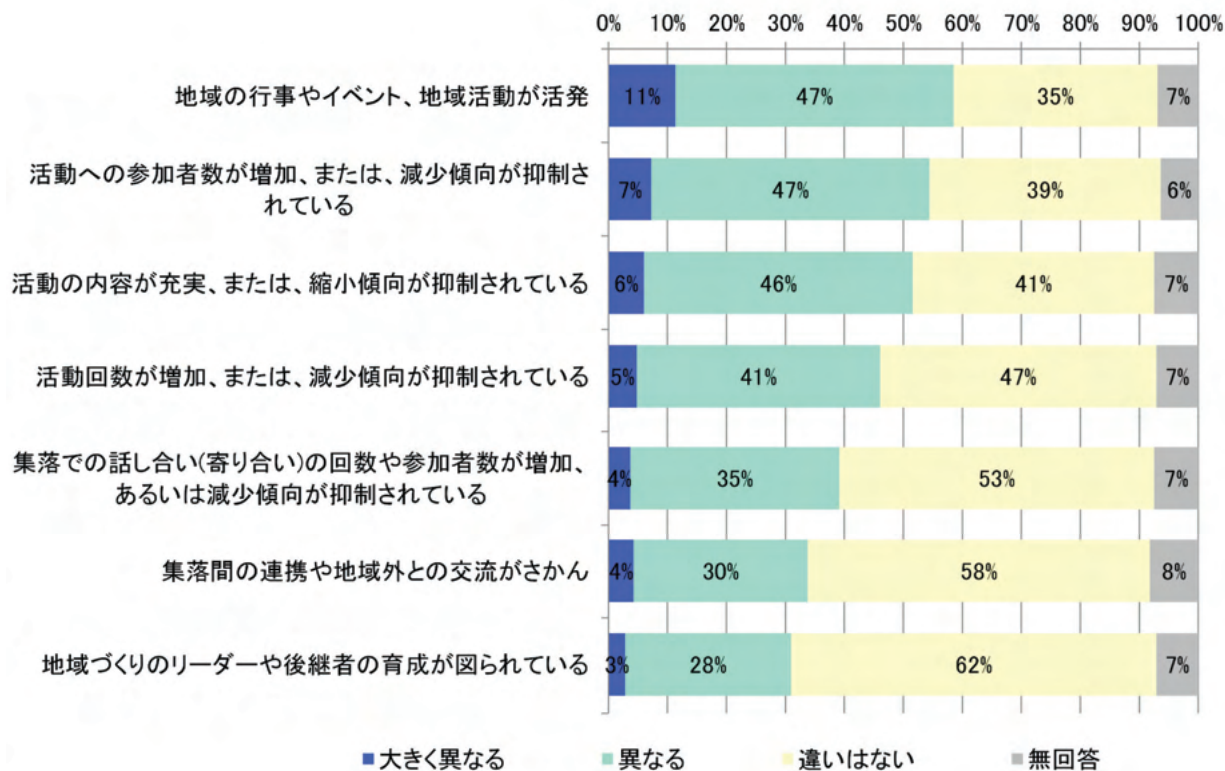
資料：令和3年度 市町村アンケートより

V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【社会】

<図表 V-2③>

非農業者や女性が多く参画している組織の特徴(市町村アンケート)



資料：令和3年度 市町村アンケートより

市町村 N=562

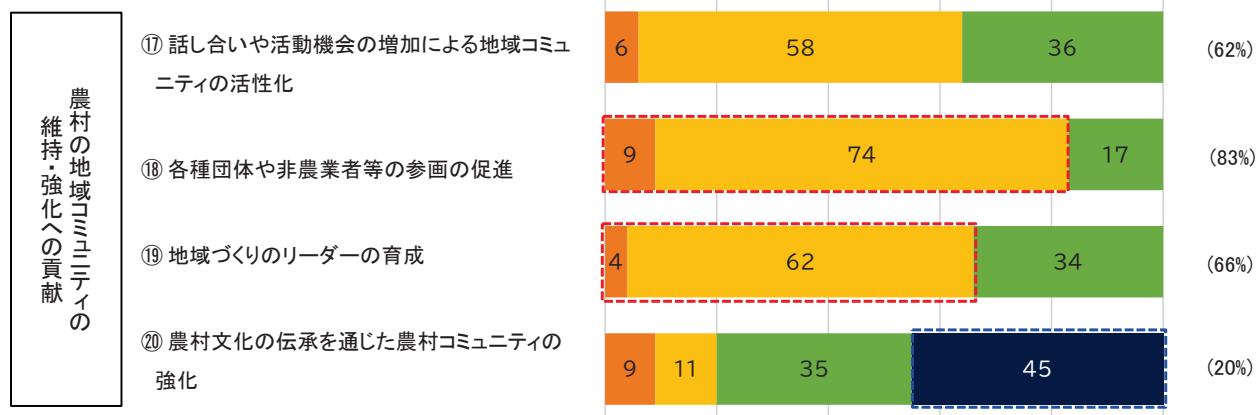
V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【社会】

<図表 V-2④>

社会に関する評価

〔5割以上の組織で効果発現〕



ほとんどの組織(8割以上)で効果発現

大半の組織(5割以上8割未満)で効果発現

一部の組織(2割以上5割未満)で効果発現

効果の発現が限定的(2割未満又は今後発現見込み)

N=47都道府県

(⑳農村文化の伝承を通じた...のみN=46都道府県)

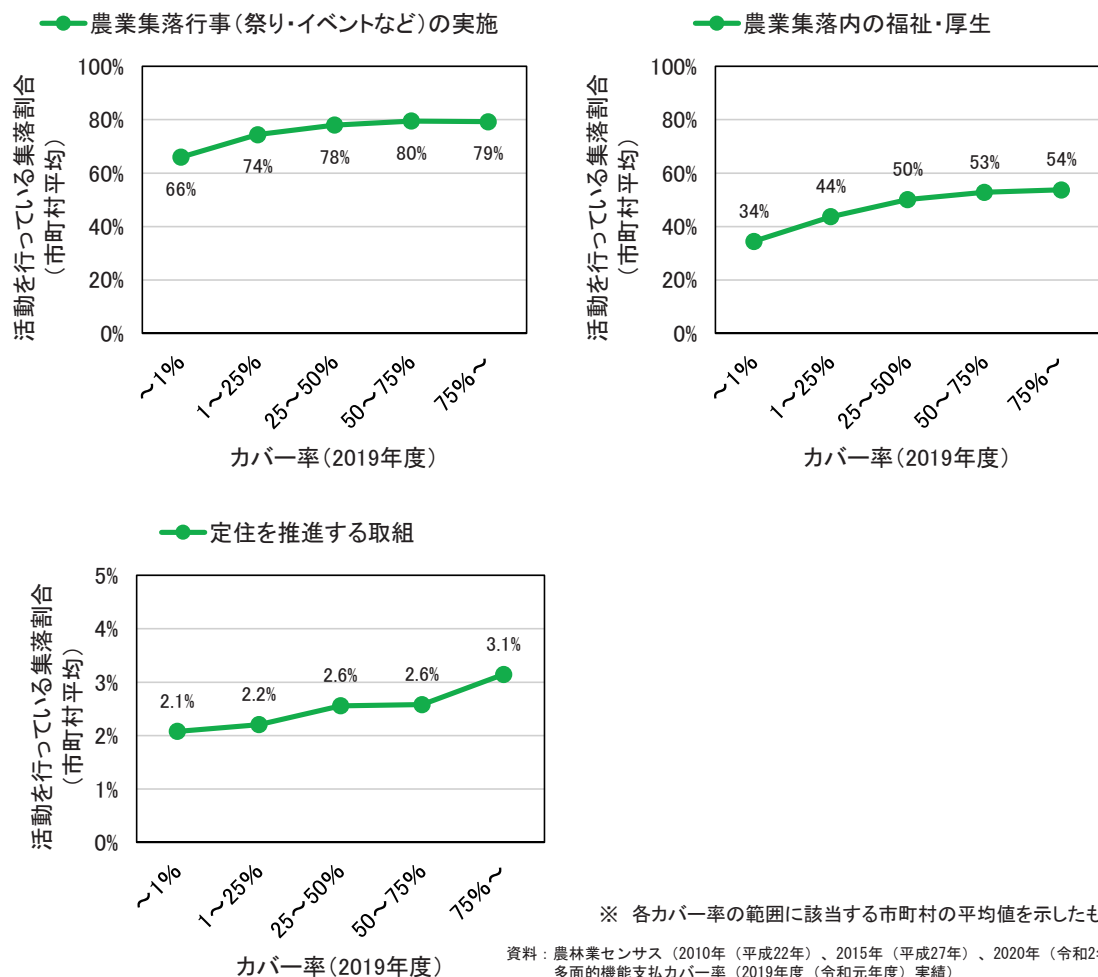
注) 効果の評価項目は、必ずしも全活動組織で取り組むことができるものではなく、またその必要があるものではないことに留意が必要。

資料：令和5年度 都道府県の施策の評価

V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【社会】

<図表 V-2⑤>

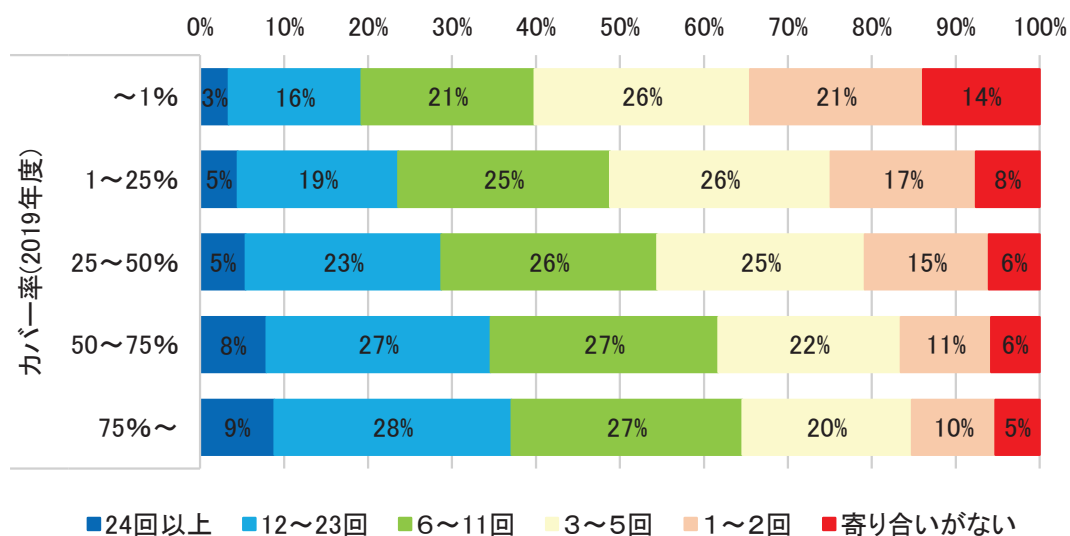


V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【社会】

<図表 V-2⑥>

寄り合いの開催状況と市町村単位の多面的機能支払のカバース率との関係



※ 各カバース率の範囲に該当する市町村の平均値を示したもの。

資料：農林業センサス（2010年（平成22年）、2015年（平成27年）、2020年（令和2年））
多面的機能支払カバース率（2019年度（令和元年度）実績）

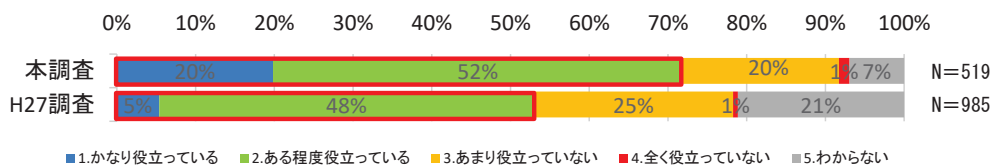
V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【経済】

<図表 V-3①>

農地利用集積への寄与

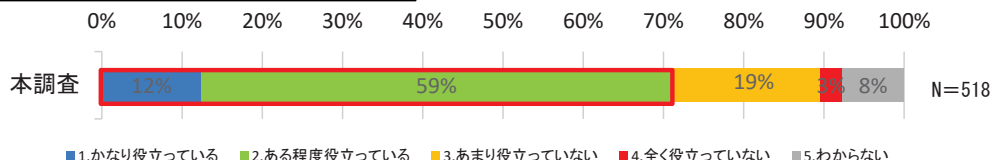
農地の利用集積や集積に向けた話し合い等のきっかけになるなど、多面的機能支払交付金の取組は役立っていますか。



注) 本調査とH27調査で有意差あり

地域農業や農業用施設等への関心の醸成等による地域農業発展への寄与

多面的機能支払交付金の取組は、非農業者が地域の農業や農業用水、農業用施設等に関心を持つきっかけになるなど、地域農業の発展に役立っていますか。



新規就農者から見た本交付金の取組

新規就農者Aさん

恒例行事となっていて、他の農業者の日常を知るよい機会となっている。情報収集、周りを見渡すことができ、地域との結びつきも強くなる。積極的な呼びかけで参加を促しているの、地域に溶け込むきっかけになっていると思う。

新規就農者Bさん

回覧板での案内や、近隣住民からの活動の声掛けがあり、新しく外から来た人でも、活動があることを知ることができる。外から来た人にとっては、地域に溶け込むきっかけとなっていて、つながりができるためよいと思う。

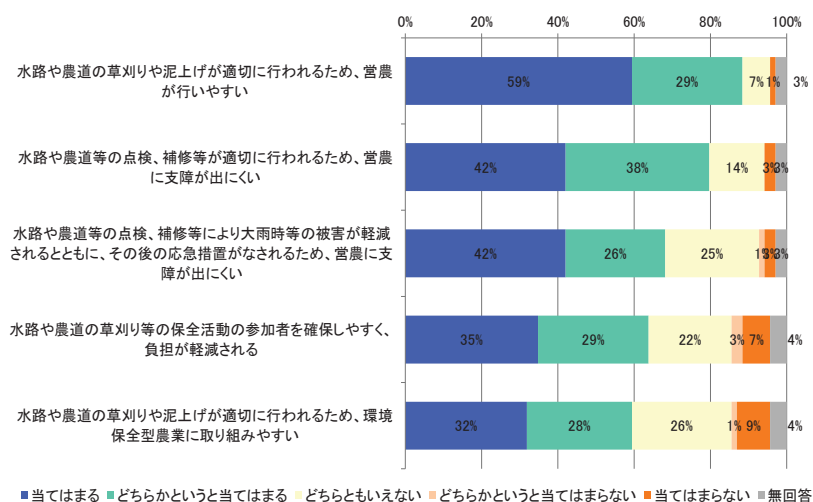
資料：令和2年度 対象組織アンケート

V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【経済】

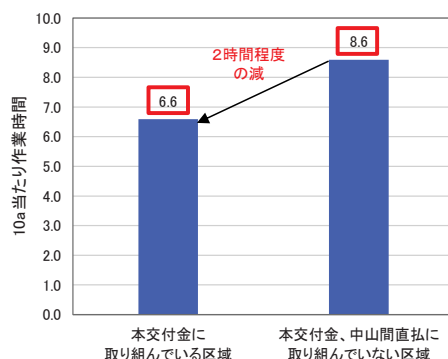
<図表 V-3②>

本交付金の取り組みが農業経営等にも与える影響(大規模経営体アンケート)



大規模経営体 N= 69

水路、農道等の保安全管理活動に要する時間(1年・10a当たり時間)(大規模経営体アンケート)



本交付金に取り組んでいる区域、取り組んでいない区域の両者に時間の記載のある経営体 N= 17

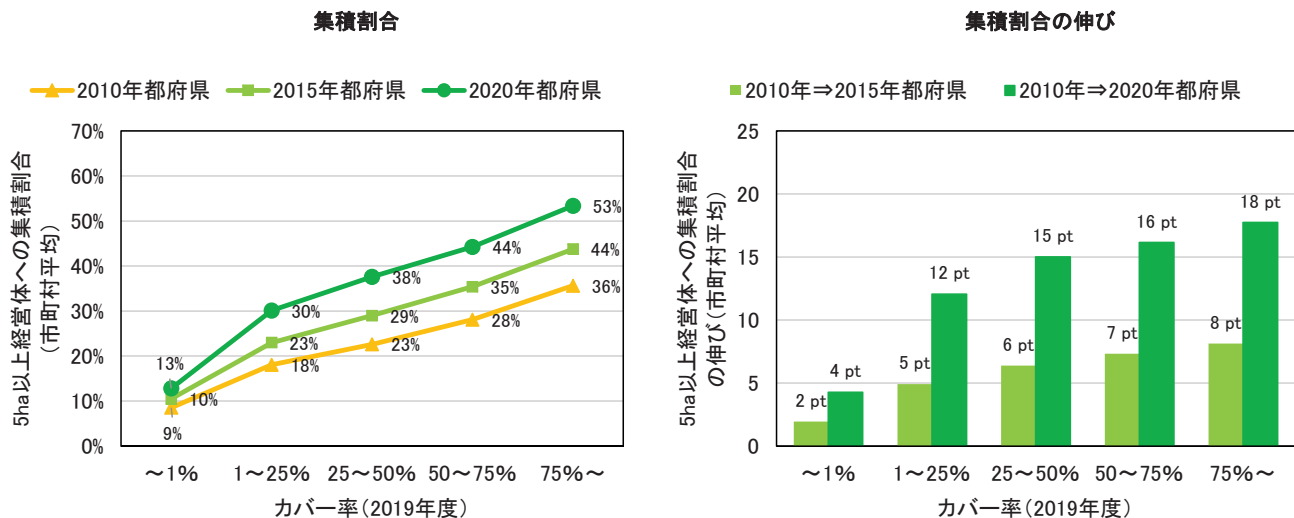
資料：令和3年度 大規模経営体アンケート

V 多面的機能支払交付金の効果の評価

【経済】

<図表V-3③>

農地利用集積割合と市町村単位の多面的機能支払のカバー率との関係

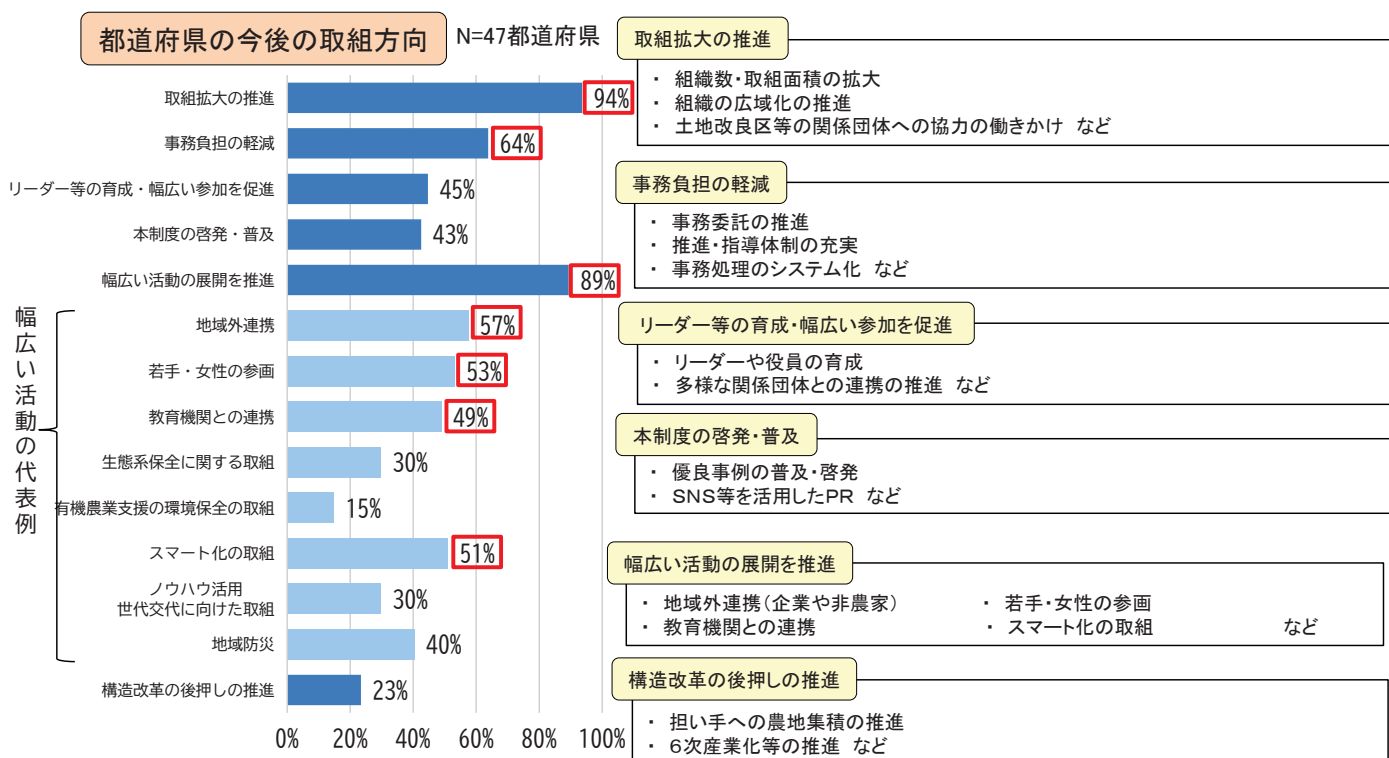


※ 集積割合 = $\frac{\text{経営耕地面積が5ha以上である農業経営体の耕地面積の合計}}{\text{全ての農業経営体の経営耕地面積の合計}}$

資料：農林業センサス（2010年（平成22年）、2015年（平成27年）、2020年（令和2年））
多面的機能支払カバー率（2019年度（令和元年度）実績）

VI 課題と今後の展開方向

<図表VI-1>



資料：令和5年度 都道府県の施策の評価